

上海で感じた太原との違い

芦田彩希

この冬休みに初めて中国で旧暦の新年(春節)を迎えました。春節が近くなるにつれて学校内や近くのお店が一時休業となり、周りでは爆竹がにぎやかに鳴り響いていました。落ち着いてきた2月末に私は上海と蘇州に旅行に行きました。

上海でまず思ったことは、日系のコンビニやスーパーがあること、ご飯のメニューには日本語でも書いてあること、そして日本人を見かけることがとても多いことです。上海で働いている方に聞いたところ、現在日本人が最も多い外国の都市が上海だそうです。上海では日本語しかできなくても生活できる環境があると思いました。もちろん日本人以外の外国人も多く、中には英語で接客しているお店もあり国際都市なのだと実感しました。

中国での移動手段には、バス、地下鉄、タクシーを利用しています。バスが一定料金で1元、バスカードを持っていると半額の5毛になりとても安く済みます。中国のバスには時刻表がなく、バスによりますが朝6時ごろから9時ごろまで循環しています。太原には現在ありませんが、北京や上海で便利であるのが地下鉄です。上海は北京のように一定料金ではなく、乗る区間によって値段が変わりますが、路線が徐々に増えたおかげで今回行きたいところはほぼ地下鉄だけで行くことができました。今回上海に来て驚いたことが、上海のタクシーの初乗りが14元かかることです。太原では初乗り7元なので数人で乗ればとても安く済みます。交通料金だけではなく上海は太原よりも物価が高いこともわかりました。

英語や日本語を使える環境がある上海は、私たち日本人にとって中国の中でとても住みやすい都市だとも思いました。しかし、太原は外国人が少ないからこそ自分の中国語を試す環境があるとも思います。そして、長期で滞在するからこそ太原の物価の安さは留学には良い点だとも思いました。この冬休みに少しでしたが、太原以外の都市を訪れ、様々な環境の違いを自分の目で見ることでよかったです。

・ 新年の干支や故事にちなんだランタン祭り



・ 蘇州の運河

